

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立岩槻商業高等学校		Cグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校として目指す方向が簡潔かつ的確に示されている学校像である。学校の現状や課題などを踏まえて概ね適切に設定されているが、創立100周年を機に、次のステップに向けた魅力ある学校像を模索していただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	生徒の現状や学校の実態を踏まえ、今年度重点目標が見直された。やや網羅的な目標となっている。中期的な視点に立ち、課題の解決に向けて、重点化した内容にすると更に良い。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	重点目標達成に向けた取組が、生徒や保護者、地域に情報提供されている。評価項目や方策が重点目標を実現するものとなるよう、より重点化して具体性のあるものにし、組織的な体制を整備していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	「基礎学力ワーキンググループ」の取組など、組織的・計画的な取組が増えてきて、成果も上がっている。評価指標については、具体的なものとなっているが、取組指標と成果指標をうまく組み合わせることで取組の達成状況が測れるものを設定することが望まれる。	
	校長的的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	教職員一人一人の能力を生かし、「チーム岩商」となって学校全体の教育力を高めようとしている校長の意欲が感じられる。校長が状況に即して的確にリーダーシップを発揮し、課題の解決の方向を示している。目標の達成に向けて更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートや学校関係者評価などを基に、取組を検証するための情報収集に努めている。前年度の課題を次年度の目標・方策の設定に生かしているが、分掌・学年等と学校全体を連携させ、より組織的なPDCAサイクルを確立していただきたい。	
特記事項			